

斑点米カメムシ対策における粒剤の追加防除による 主食用米の品質向上

要約

無人ヘリによる薬剤散布に加え、粒剤を追加散布する体系では、防除経費と労力が余計にかかるが、登熟後半まで長期間にわたりカメムシ類の防除効果が持続し、その結果、斑点米の発生が低下し、品質の向上が期待される。

○ 展示のねらい

上都賀地域の主食用米の等級の低下は、カメムシによる部分着色粒（斑点米）が主な要因となっており、近年、被害が拡大しており、品質向上が求められている。そこで、カメムシ被害の実態を把握し、効果的な防除対策（農薬散布、雑草管理）について検証を行う。

対照区：雑草管理（出穂前 15 日と出穂期）、薬剤散布（無人ヘリによる散布）

供試区：雑草管理（出穂 10 日前までと薬剤散布後 1 週間以内）、薬剤散布（無人ヘリによる散布とその 7 日後にスタークル粒剤を追加散布）

○ 主な成果

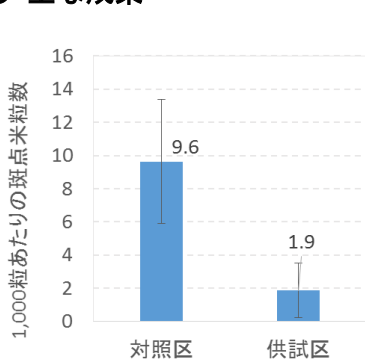


図 1 斑点米発生状況の比較

斑点米発生率は、供試区で明らかに低くなった。

対照区では、斑点米発生の原因となるクモヘリカメムシの幼虫が多数確認されており、斑点米の発生率が高くなったと考えられる。

一方で、供試区では、スタークル粒剤の追加散布により、登熟後半

まで長期間にわたり防除効果が持続し、斑点米の発生率が低下したと考えられる。

○ 今後の方向性

粒剤の追加散布により防除経費と労力が余計にかかるが、周辺圃場と出穂期が異なる場合には、カメムシ被害発生リスクが高まることから、地域慣行の無人ヘリによる防除に加え、長期残効が期待できる粒剤の追加防除は、被害の低減だけでなく越冬虫数およびカメムシ密度の低下につながると考えられ、追加防除のメリットが期待される。単年度の試験であり、引き続き効果的な防除法について検討する。

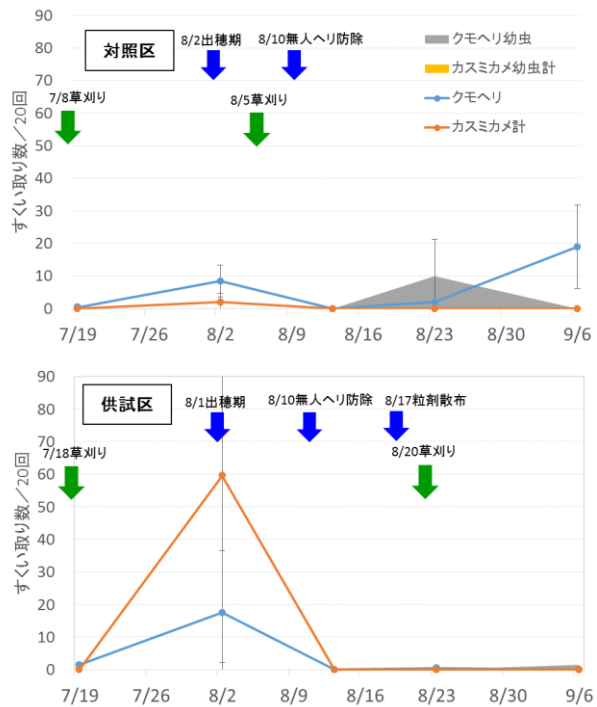


図 2 斑点米カメムシ発生状況の推移

実施機関： 上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所： 鹿沼市

問合せ先： 栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315